

一九五二年七月二十五日
発行



第35卷 第2号

史学・地理学・考古学

越前国東大寺領荘園の経営……………岸 俊 男 (1)

溜池灌漑地域に於ける用水分配と農村社会……………喜 多 村 俊 男 (21)

奈良と堺……………永 島 福 太 郎 (45)

グプタ朝(西紀四~八世紀)印度社会の
一考察(中)……………佐 藤 圭 四 郎 (58)

史学研究会春季大会報告
歴史地理教育の諸問題…………… (90)

書評と紹介

梅原真隆著「大鏡成立論攷」……………門 脇 禎 二 (99)

仁井田陞編「近代中国の社会と経済」……………里 井 彦 七 郎 (101)

Bloch: L' Etruscologie……………浅 香 正 (104)

小林行雄著「日本考古学概説」……………藤 沢 長 治 (107)

報

東洋史研究会

京都大学文学部東洋史研究室

史 学 研 究 会

京都大学文学部内

振替口座京都三七八番

史学研究会大会予告

次のような日程で、本会大会を開催いたしますから、多数御参加下さるよう、御案内申し上げます。

第一日 十一月一日(土) 総会と講演・研究発表会

○総 会

○慶陵の壁画について
天然色幻燈使用

京大教授 田村実造氏

○歴史と文学

京大教授 桑原武夫氏

○日清戦争の研究(共同研究)

京大、国史・東洋史・地理・西洋史各研究室

第二日 十一月二日(日)

見学と懇親会

○北嵯峨史跡名勝ハイキング、コース
大覚寺→釈迦堂→厭離庵→祇王寺→二尊院→落柿舎→野々宮→天龍寺

○懇親会 天龍寺にて、会費二〇〇円

第三日 十一月三日(月・文化の日)

読史会(国史)、東洋史談話会、西洋史読書会、地理学談話会、各大会

詳細は次号におしらせ致します。

なお会員の方で大会出席のため、公用出張依頼状を御入用の方は、なるべく早く本会に御通知下さい。

八月

史学研究会

会員各位

間的に)が述べられ、井上氏(京大)から歴史教育の独立、小・中・高校における歴史教育の関連及び現在の歴史教育の欠陥は何かを具体的にする必要が望まれたが、とくに森田氏(洛陽中)から各単元に一貫性が欠けられているのは妥当でないことが述べられ、更に單元の改正が屢々行われるが、これは如何に行われるのかとの疑問が出された。

(3)東氏(三島野高)は、歴史教育の欠陥或は制度の問題とともに、いま平和・愛国などの問題を取り上げた教育者が、政治的社会的な圧迫を加えられる現状に対する教師の身分保証が重要な問題であることと、正しい歴史教育を抑圧する者は誰かを見定める必要があるとの発言があつた。さらに池田氏(京大)から、現在の日本の危機に直面して、教育者は自信をもつて歴史教育を進めることができなくなつて来ている。それを克服するために、単に問題を技術的な事柄に終らすことなく、従来の歴史教育の在り方を徹底的に反省し、そこから国民のための新しい歴史教育を創造してゆかなければならぬことが強調された。以上のように歴史・地理教育について多く

の問題が出されたにもかかわらず、参会者の討論のなかから一致した結論にまで達することが出来なかつたのは残念であつたが、実際に歴史教育に従事する人と研究者との間に、現在の歴史教育ということを課題としてこのような会合がもたれ、實際問題の解決のきつかけが与えられた事は意義深いものがあつたと思う。(池田)

執筆者紹介

- | | |
|--------|----------|
| 岸 俊男氏 | 奈良女子大助教授 |
| 喜多村俊男氏 | 岡山大助教授 |
| 永島福太郎氏 | 奈良高校教諭 |
| 佐藤圭四郎氏 | 京大文学部助手 |
| 門脇禎二氏 | 立命大講師 |
| 星井彦七郎氏 | 京大文学部助手 |
| 浅香 正氏 | 京大大学院学生 |
| 藤沢長治氏 | 京大特別研究生 |

史林 前号目次(三五卷一号)

- | | |
|---|-----------|
| フランス革命と人権宣言 | 前川貞次郎 |
| 老荘の自由思想 | 村上嘉実 |
| 明治教育史の思想的背景 | 大石良材 |
| 【書評】「真宗源流史論」(中沢見明著) | 赤松俊秀 |
| 「文化史学の理論と方法」(石田一良著) | 中村二柄、Rami |
| Social Systems: C. P. Lonnis | 木地 |
| 節郎、Karl Marx und die Deutsche Revolution 1848: H. Meyer | 岡部健彦 |

京都大学文学部研究紀要 第一

- | | |
|--------------------------|---------|
| 唐天宝時代の河西道边防軍に関する
経済史料 | 教授 那波利貞 |
| 学童の生活時間に関する調査 | 助教 園原太郎 |
| | 外 教室員 |

ア史の一隅に立ちて

京大地理学関係

昭和二六年度地理学予備会。二月二三日

(土)

浮田典良「滋賀県の茶業について」

柿本典昭「日本漁業の一性格」

勝目 忍「大隅半島に於ける商品生産地域の展開過程」

末尾至行「工業上より見たる加古川中流域の特殊性」

由比浜省吾「広島県の海外移民に関する二、三の問題」

京大考古学関係

椿山古墳の調査

滋賀県治田郡治田村安養寺の椿山古墳は、最近の土工工事よる前方部の採土の結果、遺物を出したので、県からの依頼により、小林助手以下本教室員は三月二十七日より四月七日に至る間、同古墳の調査を行った。前方中央部のくびれ部に近い場所に木棺を埋めたと思われ、内より短甲・刀剣・

水野長広両教授の学士院恩賜賞受賞祝賀と新入生小野山節君の歓迎会

林巳奈夫「滋賀県椿山古墳の調査」

金関 恕「福岡県法華原遺跡の調査」

京大人文科学研究所関係

公開講演会 五月二二日

平岡武夫「漢字文化の見方」

五月二九日

花房英樹「中国古典文学の現代的意義」

六月五日

入矢義高「魯迅と中国古典」

六月一二日

桑原武夫「丁玲の霞村に居た頃について」

例会 五月一五日

川喜多二郎「野外調査におけるテープ・ロ

ーダートとカード法」

合同春季例会 五月二七日

西堀榮三「インド・ネパール旅行談」

編集後記

いま歴史の分野には多くのつびきならぬ問題がおこつてゐる。それはしようがないとか、そういつたふうには処理できぬような場面にわれわれを追いこんでいるように思う。それにしても、歴史の教育者、研究者が、ほんとうに歴史上の具体的な問題に対決し、解決してゆくこと以外には、この不安を解消してゆく道はないのではなからうか。本号はまともりの力作によつて出された問題を、不安のな

自然史学会関係

例会 五月一五日

川喜多二郎「野外調査におけるテープ・ロ

ーダートとカード法」

合同春季例会 五月二七日

西堀榮三「インド・ネパール旅行談」

例会 五月一五日

川喜多二郎「野外調査におけるテープ・ロ

ーダートとカード法」

合同春季例会 五月二七日

西堀榮三「インド・ネパール旅行談」

例会 五月一五日

川喜多二郎「野外調査におけるテープ・ロ

ーダートとカード法」

合同春季例会 五月二七日

西堀榮三「インド・ネパール旅行談」

一九五二年七月二五日 印刷
一九五二年八月一日 発行

定価 百円

史 林 (第三五巻、一号)

京都市左京区吉田本町
京都大学文学部内

発行所 史 学 研 究 会

振替大阪一四五五六番

京都市下京区七条御所ノ内東町三九

印刷所 中村印刷株式会社

THE SHIRIN

or the

JOURNAL OF HISTORY

Vol. XXXV, NO. 2 August 1952

CONTENTS

- The Echizen Manors of the Todaiji Temple
.....*Toshio Kishi* (1)
- Water Distribution and Rural Community in the Re-
cevoir Irrigation Districts.....*Toshio Kitamura* (21)
- Sakai and Nara.....*Iukutarō Nagashima* (45)
- The Social Structure under the Gupta Dynasty (II)
.....*Keishirō Satō* (58)

Book Reviews

News from the Academic World

Published

by

THE SHIGAKU KENKYUKAI
(*The Society of Historical Research*)

Kyoto University, Kyoto, Japan